

グループホームカトレア

(別紙6)

【認知症対応型共同生活介護用】

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年1月5日

【評価実施概要】

事業所番号	0970102646		
法人名	社会福祉法人宝生会		
事業所名	グループホームカトレア		
所在地	栃木県宇都宮市星が丘1-1-28 (電話) 028-650-7345		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成21年11月18日	評価確定日	平成22年1月5日

【情報提供票より】(平成21年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人 15 人	常勤14人(うち兼務11人), 非常勤3人, 常勤換算6.4人 常勤15人(うち兼務11人), 非常勤4人, 常勤換算6.6人	

(2) 建物概要

建物構造	RC鉄筋コンクリート 2階建ての1~2階部分
------	---------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	・光熱水費—20,000円
敷金	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	《入所時預かり金》 有(50,000円)	有りの場合 償却の有無	修繕費として退去時に精算
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,200 円

(4) 利用者の概要(平成21年10月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	2 名	要介護2	8 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	4 名	要支援2	名		
年齢	平均 86.05 歳	最低	76 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	沼尾病院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>当ホームは宇都宮市中心部の住宅地に平成16年に開設された。近くにスーパーや病院、河川の遊歩道等があり、管理者・職員はこうした周辺の資源を有効に活かして入居者が生活できるよう、日々の散歩や買い物等、地域とのつながりを大切にしつつも、入居者の生活リズムを大切にしながら支援している。関係法人である協力病院も近隣に位置しており、医師へいつでも相談できる体制がつけられており、看護師による24時間連携体制も確保されている。入居者のできることを大切にしており、重度化した場合でもできる限りトイレでの排泄を継続する等、身体機能の向上につながる支援を行っている。</p>
---

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価結果における具体的な取り組みとしては、ホームでの行事や入居者の生活状況の報告として広報誌を発行し、家族への配付を行った。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は自己評価は現状のスタンスを維持しているとの考えから、前回とほぼ同じ内容にしている。今後は職員にも取り組んでもらいたいと考えている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1度、自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、家族代表等をメンバーとして開催している。ホームの活動状況の報告や地域の行事等を確認している他、地域への依頼事項も会議を通じて行っている。今回の評価については日程を報告している。なお、重複する参加メンバーの負担を考慮して、地域包括支援センターが主催する「地域会議」と同時開催にしている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族への入居者の健康状態等の報告は面会時に報告をしている他、入居者の状況が変化した時は随時電話で知らせている。面会が少ない家族に対しては少なくとも1ヶ月に1回は管理者が電話で報告を行っている。今年度から広報誌「カトレア通信」を発行しており、入居者の生活状況やホームでの行事等の報告も行っている。金銭管理については、預かり金を一人ひとりの通帳で管理し、利用状況を報告しており、一定額を超える物の購入については事前に相談している。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>日常的な散歩で地域の人たちと立ち話や挨拶を交わし、近所の方から花をもらう等している。入居者が一人で散歩途中に動けなくなった時に地域の方が付き添ってホームへ帰宅したこともあり、地域住民から暖かく見守ってもらっている。自治会、老人会には加入していないが、地域の文化祭や敬老会へ参加したり、ボランティアを受入れる等、地域との交流に努めている。</p>
重点項目④	

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム周辺の様々な社会資源を有効活用し、日常の生活を保ちながら支援していくことを日々のケアの中で大切にしている。また、法人全体の理念の他、職責を果たす上での基本的意識付けとして、6つのキーワード「美・優・説・楽・早・安」を玄関に掲示している。	○	日々のケアの中で地域に密着した対応を心がけているが、今後、事業所独自の理念を全職員での話し合いにおいてつくりあげ、明文化することに期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者及び職員は地域とのふれ合いを大切にしながら、入居者のペースに合わせてその人らしさを考えており、入居者のできることは自分でもらいながら、日々の生活の中やミーティング等において理念を確認しながら支援に取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日常的な散歩で地域の人たちと立ち話や挨拶を交わし、近所の方から花をもらう等している。入居者が一人で散歩途中で動けなくなった時に地域の方が付き添ってホームへ帰宅したこともあり、地域住民から暖かく見守ってもらっている。自治会、老人会には加入していないが、地域の文化祭や敬老会へ参加したり、ボランティアを受入れる等、地域との交流に努めている。	○	ホームから自治会に対して、地域のゴミステーションの清掃を申し出る等して地域との交流に努めているが、地域性もあり積極的な交流には至っていないことから、今後も地域の特性を踏まえつつ、必要な働きかけを継続していくことに期待したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は自己評価は現状のスタンスを維持しているとの考えから、前回とほぼ同じ内容にしている。前回の外部評価結果における具体的な取り組みとしては、ホームでの行事や入居者の生活状況の報告として広報誌を発行し、家族への配付を行った。	○	管理者は自己評価について、今後は職員にも取り組んでももらいたいと考えている。自己評価は、自分たちのサービスを振り返り、現状と目標を共有する機会であり、評価を有効に活用する意味からも全職員での取り組みに期待したい。

グループホームカトレア

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1度、自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、家族代表等をメンバーとして開催している。ホームの活動状況の報告や地域の行事等を確認している他、地域への依頼事項も会議を通じて行っている。今回の評価については日程を報告している。なお、重複する参加メンバーの負担を考慮して、地域包括支援センターが主催する「地域会議」と同時開催にしている。	○	運営推進会議を通じて、地域への協力要請を行う等、事業所から働きかけを行っている。参加メンバーがほぼ固定しているため、議題の内容によって参加メンバーを柔軟に検討していくことを期待したい。また、自己評価、外部評価の結果を報告し意見や助言も出してもらおう等、会議を通じてサービスの向上に活かせる取り組みに期待したい。
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当職員とは、運営に関することや実地指導に関する相談等を電話で協議しながら進めている。また、提出資料等は郵送で済まらず直接手渡しで届け、挨拶や会話をするなど、行き来する機会をつくっている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族への入居者の健康状態等の報告は面会時に報告をしている他、入居者の状況が変化した時は随時電話で知らせている。面会が少ない家族に対しては少なくとも1ヶ月に1回は管理者が電話で報告を行っている。今年度から広報誌「カトレア通信」を発行しており、入居者の生活状況やホームでの行事等の報告も行っている。金銭管理については、預かり金を一人ひとりの通帳で管理し、利用歴を報告しており、一定額を超える物の購入については事前に相談している。	○	広報誌を発行し始めたことにより、家族が知りたい内容を考慮しながらホームでの状況をきめ細かく伝えることでホームと家族間の信頼や協力関係も深まることから、入居者の様子の他、職員の紹介や異動等の掲載にも期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情受付担当者として管理者と主任が明記されている他、職員等にも家族が意見や苦情等を出しやすい関係作りに努めている。ホーム内には玄関の分かりやすい場所に意見箱が設置されているが、意見箱に意見等が寄せられたことはない。	○	意見や苦情は事業所以外の第三者的機関である国民健康保険団体連合会や運営適正化委員会を重要事項説明書や事業所内に明記することを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は運営者と相談し、異動や離職を必要最小限に抑えられるよう職場条件について具体的な改善を行っており、以前に比べて離職者は少なくなっている。担当職員が替った際には、日ごろから入居者情報の共有を図り、後任の職員だけでなく全職員でカバーするように努めている。		

グループホームカトレア

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の研修への参加は職員の勤務年数等を考慮して管理者が人選している。内部研修においては、管理者は勉強会の形式はとらずに研修資料だけを作成し、職員に配布して質疑を求める形式を取っている。職員は3ヶ月に1回程度で自主的な職員会議を開き、日々の支援や困ったこと等についての話し合いを行い、管理者は会議内容の報告を受けて改善に努めている。	○	内外の研修の更なる充実と、研修後は研修内容が報告できる機会をつくり、全職員が研修内容等を共有できる取り組みを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は県グループホーム協会の役員を務め、協会を中心に他事業所と情報交換を行っている。協会主催の研修へ職員が参加した際に他ホーム職員と交流をしたり、市内外のホームと見学会や相互訪問による取り組みをしている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には事前面談を行い、ホーム内を見学したり入居者や職員と交流する機会を設けるなどして、本人と家族の不安解消に努めている。また、自宅への訪問も行っている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事ではお茶の準備や配膳、掃除ではモップかけをお願いしており、互いに協働しながらできるような場面作りや声かけを行っている。昼食後は懐かしの歌謡曲を一緒に歌って楽しんだり、ぞうきんの縫い方や調理時にゴマのすり方のコツを入居者から教わる事もあり、共に支えあう関係を築いている。		

グループホームカトレア

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人、家族から生活歴や信条等を確認している他、その時々言葉や表情を大切に意向の把握に努めている。意向の表出が困難な場合でも、過去の生活歴や好きなもの、その人らしさを基に本人本位となるよう努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の意向を聞いてから、担当職員がケースカンファレンス用紙を記入し、それを基に計画作成担当者が介護計画を作成している。この他に独自の「カトレア式包括的自立支援プログラム」を使用している。また、職員の入居者に関する様々な意見やアイデアは「職員連絡帳」で情報を共有している。	○	介護計画の作成には連絡ノートを活用している。アセスメントを含め、本人・家族および職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行ない、気付きや意見、要望を反映した介護計画の作成を引き続き期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は少なくとも年1回は見直しを行い、入居者の状況に変化が生じた時には、入居者、家族、必要な関係者と話し合いを行い、現状に即した計画へその都度見直している。緊急時には、朝夕のミーティングで意見を集約して柔軟に対応している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力病院への受診は職員が付き添っている。緊急時は、協力病院と連携し看護師の24時間体制を確保している。今後、重度化にともない通院が困難になった場合は、治療が継続して行えるよう、協力病院との連携により訪問診療も検討している。		

グループホームカトレア


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者や家族が希望するかかりつけ医での受診を行っている。入居後に相談、了解のうえで事業所近くの協力病院にかかりつけ医を変える入居者も多く、協力病院への受診は職員が付き添っている。他のかかりつけ医の受診は家族が行うが、その際健康状態を記した書面を渡し、受診結果の情報を共有している。また、協力病院の医師にいつでも相談できる体制ができている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームとして終末期ケアを行う前提ではないという方針を入居時に入居者、家族へ説明を行っている。協力病院の医師もその方針を理解している。重度化した場合は協力病院等との連携により、入居者ができる限りホームで過ごすことができるよう支援している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	介護や誘導等の際に入居者が恥ずかしいと思うような事は場所を変えるなどして、さりげないケアを心がけている。個別の入居者情報は他の入居者にわからないよう配慮しており、個人の関係書類は事務室や引き出しの中で保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでは大まかな日課はあるが、起床、食事、入浴も強要せず、入居者が望んでいるペースや過ごし方に合わせた対応を心がけている。また、できることはできる限り入居者に行ってもらおうよう努めている。入居年数の長期化に伴い、オムツ類が不可欠な状態となっても、できる限りトイレでの排泄を大切に、身体機能の向上につながる支援を行っている。		

グループホームカトレア

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、配膳、片付け等を入居者と職員が共同で行い、職員は入居者と同じテーブルで持参した弁当などを食べている。ひなまつり、七夕などにあわせたメニューを作ったりと季節を感じられるよう工夫している。また、週1回、入居者の希望に沿った弁当や寿司、ソバ等の「お楽しみ外注食」を取り入れている。	○	職員が入居者と同じものを食べることにより、味や固さ等についても入居者と会話ができることから、職員が入居者と一緒に同じ食事を楽しめる環境づくりへの検討を期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は午後1時～3時ごろに入浴する方が多いが、入居者が希望すれば夕食後等、いつでも入浴できるよう支援している。入浴を拒否する方は、無理強いはせず職員がゆっくりと時間をかけて話したりタイミングをみながら、納得をして入浴ができるよう支援している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の食事作り、掃除、草取り、ぞうきん縫い、ズボンのゴム入れ、洗濯たみ等、入居者ができそうなことはお願いしており、一人ひとりの生活歴や能力を活かせるよう支援している。敬老の日や米寿、喜寿等の節目の祝い事には表彰状でお祝いしたり、入居者の誕生日ごとに誕生日会を開催している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	体調や天候が悪くなければほぼ毎日散歩に出掛けており、おやつのお茶菓子の買い出し等にも職員と出掛けている。車イスの入居者も他の入居者に押しってもらう等して一緒に出かけられるよう支援している。また、週末には公園等へドライブにも出かけている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者はカギをかけることの弊害を理解し、玄関にカギをかけていない。自動ドアでお知らせチャイムが取り付けられており、内扉から出る際は目の高さの壁にあるボタンを押さないとドアが開かないしくみになっている。職員はチャイムに頼らず、入居者の見守りを行い、外出しようとしている気配が感じられた時は一緒に付き添う等の支援に努めている。	○	自動ドアについては一人で操作して開けられる入居者もいるが、誰もが自由に出入り出来る環境の大切さも考慮し、安全に過ごせる工夫を重ねながら、今後も検討を重ねていくことを期待したい。

グループホームカトレア

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害訓練は消防署の協力による避難訓練と職員による消火器の使用方法の伝達訓練等を年2回行っている。夜間等緊急時と火災時の対応マニュアルがある。今後は、夜間を想定した避難訓練を検討していきたいと考えている。	○	これまで、消防団の方に来てもらったり、運営推進会議を通じて自治会長に有事の際の協力要請をしているが、まだ具体的な協力体制にいたっていない事から、職員だけの避難誘導の限界を踏まえ、さらに地域からの協力が得られるよう、訓練に参加を呼掛ける等、実践的な取り組みを期待したい。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の献立は主任が中心となり、書籍等を参考にして栄養バランスやカロリー等を考慮しながら1週間分をまとめて作成している。好き嫌いのある入居者には代替メニューを提供している。食事や水分の摂取量はおおまかに記録し把握している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前には花壇があり、季節ごとに花が植え替えられている。共用スペースには食卓の他にソファが置かれ、広くゆったりとした空間づくりがなされている。居室の前の廊下にはベンチが置かれくつろげるようになっている。手作りの日めくりカレンダーや書道、落葉のオブジェなど入居者の作品が飾られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には鏡台や壁掛時計、テレビ、ベッド、イス、人形など、入居者毎に使い慣れた物等が持ち込まれている。居室のクローゼット、照明、エアコン、カーテンはホーム側で用意しており、空気清浄機も設置されている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。